



内田康夫『はちまん』上・下(角川書店)1999

香代子は少しうつむいて、思索してから言った。「宇佐航空隊が解散する前の晩、隊員の方々と私たちとで、ささやかなお別れの会のようなことをしたのです。といっても、隊員の方はどなたも、表立ってそういう話は出しませんでした。それは軍の機密に属することでものね。ただ、何となくそういうのって、伝わってくるものでしょう」

「そうですね、それは分かります」

「ほんの短い時間の会でした。終わり近くになったとき、飯島中尉が立ち上がって、こうおっしゃったんです。『われらもし武運つたなく、生き延びることがあれば、宇佐八幡宮の社前に集い、八幡の化身となって国に尽くそう』って。いま聞くとおかしいでしょう、武運つたなく生き延びるなんて。でも、当時はそんなふうに肩いからせているのが普通でした。飯島中尉も、それに賛同した方々も鬼のように真剣な顔をしていらっしやいましたよ」



今戸公徳「僕の町も戦場だつた—その日の宇佐海軍航空隊—」
 (『柳ヶ浦町史』所収) 1970

監視哨からB29進入の一部始終を的確にとらえようと、清水忠直哨長は眼鏡をあてたまま、B29の進行方向を追った。御許山上にB29の機影を発見したのが八時十分、高度二千メートル。第一梯団の九機が、銀翼をかがやかせて、ぐっと高度を下げて突っこんできた。“あぶない!”と思った。高度がグングン下がってくる。“あわや!”と思ったが、第一梯団はどうしたとか、航空隊の真上を西の方へ飛び去って行った。そのあと第二、第三梯団の十八機が、まったく判でおしたようにビタリとくっついてとんでくる。

高度二千メートル。編隊がピクッとゆれたかと思うと、弾倉がギョッと音をだして開くように見えた。ウサギのフンのような爆弾が、駅館川の川の中や、飛行場周辺にアラレのように降っていった。庁舎や兵舎や格納庫が、アッという間に吹っこんだ。やがて真っ黒い煙が一面に上ってきて、航空隊はなにも見えなくなってしまった。ところが柳ヶ浦女学校から、突然まんじゅしゃげのような火がおどりあがるのが見えたかと思うと、真っ赤にもえあがり、火の粉が粉雪のように舞いあがった。自分の家の日輪寺にも焰が移る。あれよあれよという間に、本堂からグレンの火柱が吹きあがるのが眼鏡に映った。

ごあいさつ

戦後56年目の今年、8月15日には、21世紀最初の終戦記念日を迎えます。戦争の体験者や証言者は、年々少なくなっていますが、平和のありがたさや大切さを21世紀にも継承していくためには、戦争を遠い過去の記憶として風化させてはなりません。

戦時中、宇佐には海軍の航空基地がつくられ、特攻隊が飛び立ち、住民をもまきこんだ激しい空襲にもまみわれました。

そのため、宇佐市には、戦闘機を空襲からまもるためにつくられた掩体壕をはじめとする戦争遺構や、戦争を物語るさまざまなしい遺品・遺物が残っています。

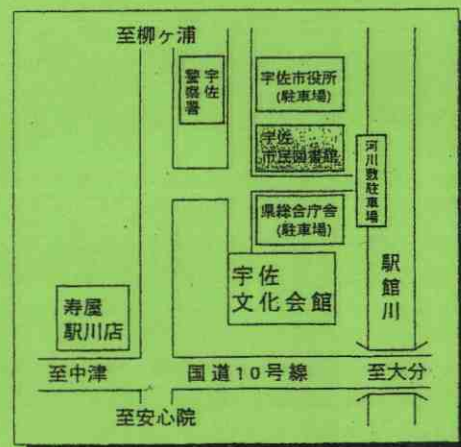
また、文学の世界では、阿川弘之の『雲の墓標』や内田康夫の『はちまん』、そして城山三郎の近作「花びらの幸福」(単行本で『指揮官たちの特攻』と改題)にいたるまで、宇佐航空隊にまつわる多くの作品が書かれてきました。

そこで今回は、宇佐航空隊をあつかった小説を集め、作家がいかにか戦争をみつめ、何を描き、何を伝えようとしたのかを中心に「文学のなかの宇佐航空隊」展を開催することにいたしました。

この展示が、新世紀の世界平和に少しでも役立つことができればうれしく思います。どうぞ、ごゆっくりご覧ください。

平成13年8月

宇佐市民図書館 渡網記念ギャラリー



平成13(2001)年8月3日 / 発行・宇佐市民図書館
 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600

21世紀最初の夏の特別企画

文学のなかの 宇佐航空隊



2001.8.3 ~ 9.14

10:00 ~ 18:00 (日曜のみ ~ 17:00)
 休館日…毎週月曜日・祝祭日・月末木曜日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー

阿川弘之『雲の墓標』(新潮社)1956



藤倉の手紙

昭和十九年十月五日 大分県宇佐海軍航空隊より
長崎県川棚町臨時魚雷艇訓練所 鹿島芳彦あて

九月すえに俺たちは此所へ移動して来た。別府から汽車で一時間半ばかり、宇佐八幡宮にちかい野中の航空隊だ。駅館川という妙な名の川が、そばをながれている。いわゆる軍規風紀はきわめて厳正、日豊本線の柳ヶ浦という駅にはじめて降り立ったとき、樫の棍棒を持った士官が三人出迎えに来ていて、「これからお前たちを徹底的に締めあげるから、其の覚悟をしている」という挨拶をした。一寸暴力団に盃をしに来たような気がした。以来毎朝、かけあしのおそい者、欠礼をした者が、片っぱしからなぐられている。あごを食らわすことを、「日課手入レ」というらしく、一日最低三度はやられる。夜は、下士官にしめあげ、いじめられている幼い練習生たちのうめき声が、手にとるように聞えて来る。日本の崩落してゆくいきおいを、こういうことで食いとめ得るとでもおもっているのだろうか。



城山三郎『指揮官たちの特攻—幸福は花びらのごとく—』(新潮社)2001
(原題「花びらの幸福—青年指揮官たちの特攻—」)

実は私は今から三年前、この取材を始めて間もないころだが、宇佐航空隊跡地に近いバラック風の建物の中で、「桜花」の部品にめぐり逢うことができた。一つは、ロケット噴射管。壕内に格納されたまま埋まっていたのを、戦後掘り出して、配水管代わりに使われたこともあるという。そして、いまひとつは、操縦席つまり「桜花」弾頭部の風防ガラス。まだ陳列以前の状態であったため、アメリカの航空博物館で手を合わせて拝んだものを、今度は部品とはいえ、手に持つことができた。重かったか、軽かったか、おぼえていない。先に手がしびれた。「桜花」の風防ガラスは、小型車のフロント・ガラスなどよりはるかに小さかった。当時の私とほぼ同年代の少年隊員たちの眼に見えるのは、その小さな窓の眺めだけ。元気そのものなのに、あまりに早いこの世の見納め。小さな窓に眼をこらしていたその姿を思うと、私は手も体もふるえ、危うく風防ガラスを取り落としそうになった。

(※文中のロケット噴射管と風防ガラスは、ギャラリーに展示しています。)

展示目録

●【書籍】

今戸公徳「僕の町も戦場だった」(『柳ヶ浦町史付録』所収) 1970	1
今戸公徳「遙かなる宇佐海軍航空隊」(雑誌『丸・エキストラ』2000年3月号より連載中) 2000～	10
平和読本編集委員会『えん体ごうののこるまち』(小学校低学年用) 1996	1
平和読本編集委員会『えん体ごうの残るまち』(小学校高学年用) 1996	1
平和読本編集委員会『掩体壕の残るまち』(中学生用) 1996	1
豊の国宇佐市塾編『宇佐航空隊の世界Ⅰ～Ⅳ』1991～1998	4
柳ヶ浦小学校6年生『平和証言集-柳ヶ浦空襲の体験者による-』2000	1
戦争遺跡保存全国ネットワーク『戦争遺跡は語る』1999	1
阿川弘之『雲の墓標』(新潮社)1956	1
阿川弘之『雲の墓標』(新潮文庫)1958	1
阿川弘之「雲の墓標」(新潮現代文学 39『阿川弘之』)1979	1
城山三郎「花びらの幸福」(雑誌『小説新潮』年5月～8月号連載)2001	4
城山三郎『指揮官たちの特攻』(新潮社)2001	1
城山三郎「これが最後の小説でもいい」(『波』新潮社)2001.8	1
豊田稯『新・蒼空の器』(光人社)1990	1
内田康夫『はちまん』上・下(角川書店)1999	2
須崎勝彌『蒼天の悲曲』(光人社)2000	1
矢島嗣久『別府なるみ創業者・高岸源太郎伝』(高橋克郎)2000	1

●【写真(パネル含む)】

零式戦闘機(尾翼に「ウサ」の文字がある)	1
かつての滑走路(現、大幹線農道南北2号線)	1
「えん体ごうののこるまち」/城井1号掩体壕/掩体壕群	3
豊前海にある爆弾投下練習用の「標的」	1
第1神風特別攻撃隊神雷部隊	1
ハワイ真珠湾攻撃実施作戦会議後の記念写真	1
真珠湾攻撃の状況を伝える写真	2
真珠湾攻撃の様子を伝える新聞記事	2
「同期の桜」宇佐海軍航空隊関連集合記念写真	8
零戦52丙型解説イラスト	1
宇佐空落下傘整備所/掩体壕のある風景/宇佐の水田風景/駅館川の風景	4
「宇佐海軍航空隊基地」位置図(防衛庁防衛研究所提供)	1
「宇佐海軍航空隊基地」位置図(拡大図)	1
宇佐海軍航空隊跡地周辺の航空写真(昭23.米軍撮影)	1
別府の料亭「なるみ」	1
宇佐市航空大写真	1
作家プロフィール(阿川弘之、城山三郎、豊田稯、内田康夫、今戸公徳)	5
今戸公徳「僕の町も戦場だった」(本文引用パネル)	1
今戸公徳「遙かなる宇佐海軍航空隊」(本文引用パネル)	1
阿川弘之「雲の墓標」(本文引用パネル)	3
城山三郎「花びらの幸福」(本文引用パネル)	3
豊田稯「新・蒼空の器」(本文引用パネル)	1
内田康夫「はちまん」(本文引用パネル)	1
須崎勝彌「蒼天の悲曲」(本文引用パネル)	1

●【遺物】

桜花のロケット噴射管(城山三郎『指揮官たちの特攻』引用文参照)	1
桜花の風防ガラス(城山三郎『指揮官たちの特攻』引用文参照)	1
別府「なるみ」に残された遺墨(軸装)	11
重箱(巡洋艦「夕張」の隊員からの記念品)	1
水筒(「宇佐空」の文字がある)	1
蚊取線香(円筒式多煙陸軍蚊取線香)	1
調整要項のプレート	1
起動用磁石発電機	1
葉莢、機銃弾、爆弾用真管	3
桜花の先端の真管用プロペラ	1
宇佐航空隊の搭乗員が使用した飛行眼鏡	1
城井1号掩体壕から出土した戦争遺物(砲弾やボルトなど)	10
元宇佐海軍航空隊第二爆弾庫爆発防止決死作業の跡記念柱	1
九二式特受信機改四(戦時中、中津市の電電公社で使用していた通信機)	3
戦闘機の計器類(照準計、高度計、水準器など)	11
双眼鏡、軍隊手帳、戦時中の定額貯金証書入	3
航空隊で使用されていた食器類、アルマイトの食器	12
海軍検定褒賞記念掛皿、記念品用の盆	2
サーベル	1
大重大尉の軍服(礼装用・平常用)	2
留式七耗七旋廻機銃改一弾葉莢筐六箇入(機銃弾葉莢)	2
宇佐航空隊員が使用していた本箱	1
航空隊委員用ライフジャケット	1
ハンマーと岩掘(戦後、滑走路を壊すときに使用)	2
宇佐滑走路の破片	1
航空隊で使用していた大釜(内径78.5cm/深さ34cm)	1
「海軍御用達」の看板(民潮酒造)	1

●【軍用飛行機モデル】

B29	2
九三式中間練習機(通称:赤トンボ)	1
艦上偵察機「彩雲」	2
夜間戦闘機「月光」	2
九九式艦上爆撃機	2
九七式艦上攻撃機	2
陸上爆撃機「銀河」	2
艦上爆撃機「彗星」	2
人間爆弾「桜花」	1
九六式陸上攻撃機	1
雷撃機「靖国」(「飛龍」)	1
艦上攻撃機「天山」	1
「桜花」を装備している一式陸上攻撃機	1
二式複座戦闘機「屠龍」	1

●【100分の1:軍艦精密模型(伊藤金二郎氏製作)】

巡洋艦「出雲」	1
駆逐艦「如月」	1

合計 173 点